

武藤類子さん(右)と大塚恵美子



(撮影:松岡広樹)

子どもの未来を考えるゆるやかなネットワーク 主催

『福島原発事故後の現実を生きる』

日時: 4月21日(日)
場所: 日体桜華高等学校 講堂
※詳細未定、決まり次第お知らせします

講師 小出裕章さん(写真)
京都大学原子炉実験所 助教
講師 鈴木大久さん
浪江町復興計画策定委員

原発事故の現実を受け止めて
安全神話により否定されてきた原発事故。
しかし事故は起こってしまい、拡散した放射能
は私たち市民の生活圏を汚してしまいました。
人間が五感で感じることのできない放射能の恐怖。
その不安すらオープンにできない閉鎖的な社会。
世界で類を見ない原発事故進行中の現状を検証し、
今我々がやるべき事をともに考え、子どもたちの
未来につなげて行きましょう。

● 昨年「福島原発訴訟団」团长としてエネルギーに全国を巡って人をつなぎ、福島県民1324人による第1次告訴、全国13、262人による第2次告訴の活動をしなやかに生み出された。

● 武藤類子さんは、3・11原発震災の半年後9月19日の「さようなら原発」の6万人集会で「福島からあなたへ」という凛とした哀しみと怒りをこめたスピーチをされた方だ。

武藤類子さんに聞く
「今、福島で
おこっていること」

1月20日、武藤類子さん(福島原発訴訟団・团长)を福島県三春町からお招きし、東村山・生活者ネットワーク第4回平和の集い「今、福島でおこっていること」を開催した。

● 第1部の「今、福島でおこっていること」では、報道のされない福島の実状を伝えてくれた。まもなく被災後2年となる福島。福島第一原発4号機周辺の放射線量はいまだ毎時73Svあり毎日3000人も労働者が被曝を余儀なくされていること、2700箇所ある県内のモニタリングポストが鉛で遮蔽されるなどコントロールされた低い数値を示していること、除染しても、お天気が変化で元に戻ってしまふ線量18歳以下対象の甲状腺検査は情報開示請求をしないと自分のデータをみることもできないこと、原発の国際的推進役であるIAEAが三春町に環境創造センターなるものをつくることとして居るが住民に知られないこと、居住地域が汚染されている避難地域でない地域住民の賠償金は1回きりの12万円であること、「頑張ろう福島」のスローガンでマラソン、祭り、外遊びが積極的に勧められていることなどを伺う。福島内部からの風化を促す状況の中で、福島の人々の疲労感は一層に達している。

● やり場の無い怒りの中で、事故の原因の究明もされず、誰も原発事故の責任を問われないことに対し、東電、国、学者の刑事責任を求める告訴に踏み切った類子さんたち。被害者は全ての日本人だ、という思いが全国の告訴団の動

● 第2部の「どんぐりの森からは、養護学校の教員をしながら三春町の森の斜面を開墾し、必要なエネルギーを自給自足し、丁寧な暮らしを営んだ16年の記録だ。消費だけで暮らして成り立たせない姿勢、どんぐりの灰汁を抜き、宮でいた里山喫茶のカレーに用い、どんぐり虫を炒めて食べてみる、薪を蓄え冬に備える、などの山の暮らしは原発事故であっけなく失われた。蓄えた薪を燃せば、大量のセシウムを含んだ灰を生み出す。犠牲を強いることで成り立つ原発・放射能は、人間や環境と共存できないのだ。類子さんのお話は自然で、優しい。熾火のような怒りと決意は私たちの体にしみ込む。

● 地検は事情聴取を開始したが、政権が替わった今、厳正な捜査と起訴を求める署名で、市民の監視の力を見せていこう、という動きが広がっている。「新しい政府」の「原発ゼロ政策の見直し」「安全な原発をつくる」という欺きと高い垂直の壁に、目をそむけたり諦めたりせず、真の市民は横に拡がり、つながらず、根っこを張り続けているのだ。
(大塚恵美子)

● きにつなごう。事故の責任を問わずに真の復興はあり得ない、との思いが十分伝わってくる。

● 社福法人・名古屋厚生会の生活保護授産施設、クリーニングセンター、母子施設を訪問。

大塚恵美子のまちカフェ日記



● 12/12
師走の都知事選挙は、宇都宮けんじさんを応援。勝手連がまちのあちこちでグリラチラシマきを。

● 12/14
福島県浪江町の一時帰宅に同行。原発震災で日常を失ったまちの現実を知る。波頭の向うに福島第一原発が見える。

● 1/25
社福法人・名古屋厚生会の生活保護授産施設、クリーニングセンター、母子施設を訪問。

脱原発統一候補・宇都宮健児さん及ばず

● 昨年12月16日、衆院選と同日選挙でおこなわれた東京都知事選で、東村山ネットは「脱原発」人にやさしい東京」を掲げて立候補した前日弁連会長の宇都宮健児さんを支持しました。勝手連中心の市民ボランティアが駅やスーパー前でのピラマキ、ポスティングにと活動。投票日前日まで「都知事に宇都宮健児さんを！」と声をからして呼び掛けました。「新しい東京をつくりたい」と応援しましたが、国会の突然解散でダブル選挙となり、都知事選は埋没、都政の課題が争点化されることはなく、知名度と組織力に勝る猪瀬前副知事の圧勝に終わりました。

● 都民の期待に応える都政運営を
高齢化が急速に進む東京では、高齢単身世帯、夫婦のみの世帯が急増しています。生活者の視点で医療・福祉・介護・住まいの政策を見直すこと、地域福祉を担う市区町村が役割を果たせるよう、自治体・NPO・市民活動の支援強化が必要です。老朽化するインフラ整備も急がれ、エネルギーについても、原子力発電から持続可能な地域分散型エネルギー社会に変えることを東京から発信していくことが求められています。猪瀬知事には、43万票の重みと責任を真摯に受け止め、都民の期待に応える都政運営を望みます。

《お知らせ》
自然エネルギー&市民電力 視察報告会
3月30日(土) 午後1時半~3時

● 自然エネルギー社会作りに向けた政策を具体化するため、大塚恵美子が2月にドイツ・デンマークの視察ツアーに参加。その報告をスライド上映を交えて行ないますので、ぜひご参加ください。
詳しくは、東村山・生活者ネットワーク
TEL&FAX 042-392-7677